引用文献

Burtt B. L. 1977. The nomenclature of turmeric and other Ceylon Zingiberaceae. Notes Roy. Bot. Gard. Edinb. **35**: 209–215.

環境庁 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブック－自然環境研究センター，東京.

Kress W. J., Liu A.-Z., Newman M. and Li Q.-J. 2005. The molecular phylogeny of *Alpinia* (Zingiberaceae): a complex and polyphyletic genus of gingers. Amer. J. Bot. **92**: 167–178.

Makino T. 1902. Observation on the Flora of Japan. Bot. Mag. Tokyo. **16**: 49–60.

Proctor G. R. 1972. Zingiberaceae. *In*: Adams C. D. (ed.), Flowering Plants of Jamaica. University of the West Indies, Mona.

Smith R. M. 1985. A review of Bornean Zingiberaceae: 1 (Alpineae p.p.). Notes Roy. Bot. Gard. Edinb. **42**: 261–314.

豊田武司（編著） 1981. 小笠原植物図譜. アボック社，鎌倉.

Wu D. L. 1981. Zingiberaceae. Flora Reipublicae Popularis Sinicae **16**(2). Science Press, Beijing (in Chinese).

Zhao Z. L., Zhou K. Y., Dong H. and Xu L. S. 2001. Studies on systematics of "*Alpinia aquatica*" from China: evidence from ITS sequences of nuclear ribosomal DNA. Acta Bot. Yunnan. **23**: 439–443.

（信州大学工学系研究科
地球環境システム科学専攻
E-mail: alpinist@blue.plala.or.jp）

新　刊

□山本正江，田中伸幸（編）：**牧野富太郎植物採集行動録　明治・大正篇**　200 pp. 2004. **同昭和篇** 208 pp. 2005. B5版. 高知県立牧野植物園. ¥5,700. ISBN: no number.

牧野富太郎博士の日記を軸に，採集標本ラベルをはじめ，田代善太郎日記，根本莞爾伝などの資料から抽出した情報を元にして，博士の行動を日単位で記録したものである．編者の山本氏は，東京都立大学牧野標本館で，永年にわたって牧野標本の整理にたずさわってきた．牧野標本館では設立当初から，わが国ではじめてカードシステムを採用し，一点につき一枚のカードに標本情報を記録してきたが，標本につけられた走り書きのメモの解読に非常に苦労したと聞いている．また産地が読み取られたとしても，それを地図上に特定して位置情報化するに足る記述が伴っていないため，同じ地名があちこちにあってどこだかわからないというジレンマも少なくなかったようだ．この日記がそういう問題を解決する鍵になると，山本氏が考えたのはもっともである．実際この日記によって，ラベルの記録を訂正することができた例もあるという．日記自体の解読も，そうたやすいことではなかったという．田中氏は牧野植物園にあって，一般の質問に対応するためにも日記の利用が必要であることを実感し，山本氏に協力して編纂にたずさわった．中にははがきの消印から場所や日時を特定したケースもあるという．

お二人の努力と多くの方の協力により出来上がった本書は，牧野博士の行動の記録にとどまらず，彼と交流した人たちの足取りを記録するものとして，多方面の利用が期待される．私は覗き見しただけだが，明治29年に台湾での採集に先立って，ピストルと弾丸50発を購入との記事が目にとまり，当時の調査にそれほどの覚悟が必要だったことを，あらためて認識した．購入の申込先は（財）高知県牧野記念財団（郵便振替 01620-6-49993）である．（金井弘夫）

□大澤雅彦（監訳）：**ヘイウッド花の大百科事典**　305 pp. 2005. ¥37,800. A4判. 朝倉書店. ISBN 4-254-17114-5 C 3545.

本書は V. H. Heywood (ed.): Flowering Plants of the World の翻訳で，原著は1978年に出版され，1993年に一部が改訂された．今回の翻訳書は改訂版によっている．原著は科のレベルで世界の被子植物が概説されたものである．各科ごとに，それぞれの科を代表させた１または複数の種の図があり，説明文は科の特徴，科内レベルの分類，経済的利用の３項目に分けられて簡潔にまとめられ，科の分布図を世界地図上に分布範囲を色づけして

示している．植物図については，大部分の科は陰影付きの単色図に一部彩色を加えた図（全形図，拡大図，解剖図）であるが，マメ科やキク科などでは全部彩色図となっている．いずれも美しく分かり易く描かれている．科ごとに1人ずつの分担で解説され，執筆者は総勢44人からなる．

原著は27年前に刊行されたもので，国際的に高い評価を得た著作であり，日本でも多くの分類研究者は既に手にしているだろう．この27年間に分類学の知識は著しく増加したから，現在の被子植物の知識に比べると原著の内容はすっかり古くなっている．しかし，原書は被子植物全体を形態に基づいて分かり易くかつ簡潔にまとめており，当時の科レベルの知識が集約されている．その上今日に至るも国内外に手軽な類書がない．原書に盛り込まれている形態の知識は分類の基礎として今日も通用するものであるから，この点では今日でも日本語訳書刊行の価値はあると思う．

タイトルを除けば，この翻訳書の内容は原著にそって翻訳されている．しかし，一部に誤訳や説明不足のあることが惜しまれる．重要な点を例にすると，「はじめに」の中で花の形態学上の定義を『花は「縮約され，高度に変形させられた胞子葉」とみなすことができる』と訳しているが，『花は「胞子をつける短縮して著しく変形したシュート」と解釈されている』とでも訳すべきではないかと思う．用語集では，背側の dorsal (p. 15用語集左列)を「上側，軸の反対側」とし，腹側 ventral (p. 18用語集右列) を「下側の」と間違えて説明している．なお，原著でも dorsal = upper, ventral = on the lower side となっていた．図 A (p. 8)では hypogynous が「子房下生の」, epigynous が「子房上生の」と訳されていて，意味が逆になっている．掲載用語英日対照表では adnate を「側着の」とだけしているが，本義である「(異類) 付着の」が必要である．

この翻訳書では原書の植物図が正確に複写されていて，その美しさもよく出ている．一部の図はやや派手になった印象を受ける．製本はいささか贅沢に感じられるくらいに立派である．出版社は本訳書をガーデニング愛好者から植物学の研究者までを対象とすると宣伝しているが，「花の大百科事典」と改変されているタイトルからみると，植物学の教科書であるよりもガーデニング愛好者のための植物案内であり，花の美術書を意図したかのような印象を受ける．植物学研究者の立場からすれば高価であるが翻訳ができて便利である．植物分類学者にとってはもちろんのことであるが，植物形態学，植物生態学など分類学周辺の分野，園芸学や林学など農学分野，薬用植物学分野などの研究者にも役立つことが多いだろう． (大橋広好)